

歯学部附属歯科衛生専門学校
令和4年度自己点検・評価及び学校関係者評価 報告書

1 目的

歯学部附属歯科衛生専門学校（以下「本校という」）において実施した自己点検・評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることなどを目的とする。

2 基本方針

本校において、自己点検・評価を実施し、「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省：平成25年3月策定）を参照し、複数名の評価者により本校の学校関係者評価を行うことを基本方針とする。

① 自己点検・評価の実施本校において、点検・評価項目を3項目設定した。

学校関係者評価実施前に、本校において、各点検・評価項目について自己点検・評価を行い、その結果について以下の4段階の取組評価をし、「自己点検・評価及び学校関係者評価票」（様式2）を作成した。

(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

<点検・評価項目>

①【重点目標】学生の受入れが適切かつ適正に管理され、定期的に点検・評価を行っているか。
②教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
③学生生活の充実を図るために、学生の心身の健康等における支援対策は講じられているか。

② 学校関係者評価の実施

(1) 評価者による評価は、本校からの提供資料によるほか、授業、学校行事等の見学、校長・教職員及び学生との面談により行った。

(2) 本校から「自己点検・評価及び学校関係者評価票」（様式2）の各評価項目についての資料等を提示し、評価結果及び取組状況等を評価者に説明した。

(3) 各評価者が、評価結果について「自己点検・評価及び学校関係者評価票」（様式2）にまとめるとともに、取組評価を以下の4段階で評価した。

(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

(4) 評価者の互選による代表者は、各評価者が記述した「自己点検・評価及び学校関係者評価票」（様式2）を取りまとめ、「自己点検・評価及び学校関係者評

「評価報告書」(様式1)にて評価結果(総評)を作成した。

3 学校関係者評価協議会構成員

① 評価者

(1) 卒業生

井上 球代(昭和60年歯学部附属歯科衛生専門学校卒業生, 歯学部附属歯科衛生専門学校同窓会会長)

(2) 学校の専門分野における関係団体・関係業界

船曳 光雄(一般社団法人東京都千代田区歯科医師会 専務理事)

(3) 保護者・地域住民

成田 アヤ子(平成9年歯学部附属歯科衛生専門学校卒業生, 成田歯科医院勤務)

② 日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校関係者

岡田 明子	校長
清水 康平	教務主任
満足 愛	教務副主任
國井 知余	専任教員
鈴石 雅子	専任教員
矢野 杏佳	専任教員
向井 友美	教務課主任

4 学校関係者評価協議会開催日時

- ① 第1回 令和4年11月24日(木) 午前10時30分～10時55分
- ② 第2回 令和4年12月15日(木) 午前10時30分～11時15分
- ③ 第3回 令和5年1月12日(木) 午前10時30分～11時

5 評価結果(総評)

志願者を増やすため外部での進路説明会への参加を積極的に行い, 入試の回数や種類を増やしていることは評価できると思う。しかし, 定員を満たしていないため評価はBだが, キャンパスもきれいになり今後について期待したい。

多忙な中, 専任教員が外部研修会にも積極的に参加していることは, 学生が知識や経験を育む上でとても重要であると思う。

近年のメンタルの弱い学生に対しても, 手厚く学生個々に合わせた対応を学校全体として指導している。学生募集を停止していたため, 現在2年生と3年生しか在籍していないが, 数年後は全学年が揃う時には教員の増員が必要ではないかと考える。また, 入学前準備教育プログラムにより早々に入学が決まった新入生へのフォローもあり, 入学後の退学や休学が減少していることは評価できることだと思う。

以 上